

こんだったのでござった。

一五・イエシューさまがお水を潜る

参照 マタイ 3 13-17、マルコ 1 9-11、ヨハネ 1

29-34

21 さて人々こそりて「ヨハネのもとで」お水潜りをさせてもらっていた時分に、

草深きガリラヤの山里からやって来た一人の壮者がござった。これぞすなわち成人なされしイエシューさまでござる。そして

イエシューさまもまた「ヨハネから」お水を潜らせてもらったのでござる。

その折りのこととてござる。イエシューさまが神さまのお声をばお聞き申さんものと一筋にその心を澄ましいたるところ、「御覧あれ」天空に大いなる

口開き、22 神さまの尊き御息が、鳩のごとき体を持ったお姿を取りてイエシューさまの頭上に降りたまい、さらには天にお声があつて、かかる御言葉たまわつたのでござる。

「そなたこそ我が愛しき子、げにもげにも我が喜びなれ！」

一六・イエシューさまの御先祖

参照 マタイ 1 1-17

23 かくしてイエシューさまがいよいよそのお仕事にお手をお着けなさつたのは、御年三十歳ばかりの頃でござつたが、世間ではイエシューさまはヨセフの息子だと思われていたのでござる。

その

系譜をたどれば、

ヨセフの親は、エリ、

● 第四章

一七・悪霊の誘い

参照 マタイ 4:1-11、マルコ 1:12-13

「イエシューさまは、神さまの尊き御息をその身に受けて、ヨルダン川から戻り、その御息に吹きやられるようにして、荒野へ出て行きなされた。² かくて四十日の間、人の心の闇に巣くう憑き物にその心を試され続けたのでござる。その間まったく食を断つていなされたので、しまいには絶え入るほどに飢えて、我慢もなにかねるほどになりなされた。

³ そこで、憑き物が申すには、

「そなたさまは神さまの我が子と慈しむお方でありなされる。それなら、この石に一言、^① 握飯になれと言いなされ。」

⁴ イエシューさまはこう答えなされた。

「尊き書き物にはこうある。^② 『人は飯さえ食つて

いれば幸せに生き生きするというものではない』とな。」

⁵ そこで憑き物はイエシューさまを「高い山へ」連れ登り、一時の間に、世の中のあらゆる国々の有り様を見せて、⁶ こう申してござる。

「この国々を取り仕切る力と誉れを、わたくしはすべてそなたさまに差し上げましょう。それと言つのは、これらすべてをわたくしは意のままにすることができまるによつて、これと見込んだお人にはそつくりそのまま差し上げましょう。⁷ このわたくしの前に膝をつき、このわたくしを拝みなされ。さすれば、すべてはそなたさまの物にござりますぞ。」

⁸ しかし、イエシューさまはこれに答えて、こう言いなされた。

「尊き書き物にこうある。^③ 『お前のあるじは神さまだ。その神さまをこそ拝み申せ。ただひたすらに我らが御あるじなる神さまにお仕え申せ』とな。」

⁹ するとなお憑き物はイエシューさまをばイエ

サレムに連れて行き、お宮の外廊がいろうの目も眩くらむばかりに高き縁へりに立たせて、こう申してござる。

「そなたさまは神さまの我が子と慈いづくしむお方かたでありなされる。それなら、ここから下へ身を投げて御覧なされませ。何となれば、[尊たつとき書き物にも]こう書いてござる。①『神さまは、そなたを守れと、み使いたちに下知げちなされ』と。②『それで、み使いたちは手を伸べて、そなたを支える。そなたの足が石に打ち当たらないようにするために』と。」

⑫しかし、イエシユーさまはこれに答えて、言いなされた。

「こうも書いてある、③『恐れ多くも』汝なんじがあるじ」とお仕えすべき」神さまを試みるがごときまねをしてはならぬ」と、な。」

⑬試すのにも万策尽きたるこの悪霊は、よき折りめりが巡り来るのを待たんとて、イエシユーさまから離れ去つてござる。

一八・ガリラヤで教え始める

参照 マタイ 4 12-17、マルコ 1 14-15

⑭神さまの御息おんいきをその身に受けて、活き活きと力に満ち溢あふれ、イエシユーさまはガリラヤに帰つて来なされた。かくしてその評判は辺り一帯に広まつてござる。⑮そうして、イエシユーさまはそちこちの寄合よりあひで教え始め、人みなからこれは大したお人だと思われるようになって行つたのでござる。

一九・ナザレでは爪弾つまはじき

参照 マタイ 13 53-58、マルコ 6 1-6

⑯そうして、イエシユーさまは、お育ちなされた故郷ふるさとのナザレに帰つて来なされた。休み日になり、常のごとく、イエシユーさまは寄合に入つて行つて、尊き書き物を読もうと、立ち上がったでござる。⑰そして渡されたる御言みことば持ちイザヤさまの巻物を開き、こう書いてある所を探し出してござる。

このヨハネのところに、まだ誰でも来ることができた頃のことです。イエス様が「沈めの儀式」を受けにやってきました。その儀式が行われたとき、祈っていると、天が開け、神様の特別な息吹が、イエス様のところへ吹き降りてきました。それはまるで、鳩が高い所から降りてくるような感じだったのです。そして、天から声が聞こえました。

あなたこそ、私の大切な倅（せがれ）だ。

あなたがいて、私は本当に、嬉しかった。

まさにこの時が、イエス様の活動の始まりでした。その時、イエス様は、だいたい三十歳頃でした。その頃、神様の息に包まれてマリアから生まれたイエス様は「ヨセフの息子」として世の中に知られていました。

イエス様は、聖なる神様の息に満たされ、ヨルダン川から戻ってきました。そして神様の息吹の中で、荒野の中を何かに導かれるようにして歩いていました。そうした時は、危険なものです。陰口を叩いて心乱す者・「試みる者」である悪魔が、40 日もの間、イエス様に迫って来ました。その間、イエス様は何も食べずに過ごしました。

恐ろしい空腹が、イエス様を襲いました。悪魔はイエス様に言いました。「あなたは、神様の息子なのでしょう。それなら、この苦しさは、おかしい。さあ、石に命じて『パンになれ』と言いなさい。」この声に、イエス様はこう答えて言いました。「聖書には、こう書いてあった……人はパンだけで生きているものではない。神の言葉の一つひとつがなければ、人は生きているものではない。」

次に悪魔はイエス様を高い山の上に連れて行きました。一瞬のうちに、世界の国々すべてが見えたのでした。悪魔はイエス様に言いました。「ここに溢れる力の全てを、あなたに上げてもいいのだよ。この輝きの全てを、あなたのものにすることができる。このすべて

は、私の自由になるものなのだ。これをあげようと思う人に、私はこれを持たせている。だから、さあ、私を伏し拝みなさい。そうしさえすれば、全てがあなたのものになる。」この声に、イエス様は答えて言いました。「聖書には、こう書いてあった……『主』と呼ばれる聖書の神・あらしむるもの。それをこそ、あなたの神とし、伏し拝め。聖書の神・あらしむるもの。それ以外には、仕えるな。」

悪魔はまた、イエス様を首都エルサレムに連れ出しました。エルサレムには大きな神殿が威容を誇っています。その一番高い所に立たせてから、悪魔はイエス様にこう言いました。「あなたは、神様の息子なのでしょう。さあ、ここから飛び降りてごらんください。旧約聖書には、こう書いてあった……

神の子を守る 天使たち。

神が命じた そのとおり、

神の子を守る 天使たち。

その手のひらは 神の子を包む。

落ちて行く 神の子の足が

ひとつの石にも 当たらないように。

この声に、イエス様は答えて言いました。「こう言われている…

あなたの神は 聖書の神

聖書の神は 主と呼ばれ

『あらしむるもの』こそ、その名前。

誰も決して 試すことなど できない方だ。」

心乱す者・「試みる者」である悪魔の挑戦は、これですべて、終わりました。悪魔はこの後、来るべき時が来るその時まで、まったくイエス様に近づかなかったのです。

イエス様の活動の時は、遂にやってきました。その活動は、「石をパ
ンに変える」ようなものではなく、「権力を使う」ようなものでも

なく、そして、「耳目（じもく）を集めて驚かす」ようなものでもなかったのです。そうしたやり方は、一切、退けられました。そうではなくて、イエス様のやり方が、これから貫徹するのです。

神様の息吹の力の中にあるまま、イエス様はガリラヤへと戻られました。ガリラヤとその周辺一帯に、イエス様の噂は広がって行きました。イエス様は公民館に集まる人々に教え始めました。その教えによって「すべての人が」神様はすごい！と語り合うようになりました。

イエスの洗礼

(ルカ福音書三章二一—二三節)

私たちは集会場に集まった。私たちの眼下には、湖がとても静かに、そして非常に青く横たわっていた。私たちは共に食事をした。米と豆と魚だった。魚はトマースが持ってきてくれたもので、トマースの奥さんがその魚を植物の葉に包んで蒸してくれたものだ。

私たちは、これから討論することになるルカ福音書の短い箇所を読んだ。

民衆はみなヨハネから洗礼を受け、この時、イエスも洗礼を受けられた。

最初に私は、《洗礼》にあたるギリシア語はまた、《水浴び》と翻訳することも可能だと説明した。ここで大切なのは、地上の多くの民族によって実際行われているみそぎの儀式である。それから私は、なぜイエスもご自身、洗礼を受けられたのだろうか？ と尋ねた。

女性たちのうちのひとりが言った。——私たちにお手本を示すためです。イエスさまは洗礼なんか

必要としておられなかった。だけど私たちには必要だわ。そしてイエスさまは、私たちも洗礼を受けるように、ご自分も洗礼を受けられたのよ。

他の男。——イエスはまた、謙遜からそうなさったということもある。イエスは彼の弟子やそのグループと一緒に歩き廻っておられた。だから、「私は洗礼を必要としない。あなたたちは洗礼を受けなさい。私にはなんの罪もない」と言いたくなかったんだ。そんなことはもしかすると、他の、パリサイ人、ヨハネのところに来ないような人々の態度なんだろう。それに反してイエスは、他のすべての人々がヨハネのところへ行くように、彼のところへ行っただ。

トマス・ペーニア イエスさまは他のすべての民衆とご一緒にお出かけになったんでさあ。大勢の人がヨハネのところへ行っただ。それでイエスさまも、まるで民衆のひとりみたいに、彼らに混じられたんでしょ。

アレファンドロ イエスは連帯感から、自分自身を彼に従うグループから切り離さないように、洗礼を受けられた、と言うこともできるんじゃないか。

他の男。——ここにも、何も信じないし、何も必要としないからと言って、教会にこないものが何人か居る。そうすることによって、彼らは、われわれ、すなわち他の人間から、この共同体から自分自身を切り離しているんだ。それに対してキリストはご自身には必要なかったけれど、洗礼を受けられることに同意された。なぜなら、イエスは共同体から自己を切り離したいとは思われなかったからだ。

そしてその時、イエスが祈っておられると、天が開けて、聖霊が鳩のような形をして、イエスの上に下った。そして、「あなたは、私によるこびとする私の愛児である」という御声が天から聞こえて来た。

——実際、鳩が飛んで来たのではなくて、ここに書かれているように、聖霊が鳩のように下ったんだ。鳩っていうのは優しい愛すべき生き物だからな。そして聖霊だって、優しく愛に満ちている。それはイエスに下り来たった神の愛なんだ。

——御父はそうすることによって、イエスが洗礼を受けられたことを、喜んでおいでになると言いたかったんだ。そして御父はまたわれわれにも、洗礼の結果は、聖霊を受け入れることにあると、お示しになろうとしたんだ。

——神はその御子を承認した。私たちが洗礼を受ければ、神は私たちをも承認して下さる。つまり、私たちが態度を改めればということだけれどね。それで、私たちがただ単に習慣に従って、今では国中でおこなわれているように洗礼を受けさえすればよいのであれば、神は私たちを認めたりはしない。

——そのような洗礼は、人が成長して、自由意志で自分の態度を改めることができるときに、初めて効力を持つんだ。

イエスがその業を始められたとき、彼はおよそ三十歳であった。

私は自分が気づいたことを述べた。——普通、イエスは三十歳で亡くなられた、と言われているけれど、しかし福音書には、はっきりした年齢が記載されていないんだ。ただ、イエスが公的な生活を始められたのは、彼がおよそ三十歳のとき、おそらく二十歳から三十歳の間の青年だったと言われているに過ぎない。

ラウレアーノが笑った。——じゃあ、イエスはおよそ僕らと同年齢だったと僕は思うね。

イエス、荒野に試みられる

(ルカ福音書四章一一三節)

私たちはイエスが、どのようにして聖霊によって荒野に導かれ、どのようにして四十日間、断食なさったかを読んだ。私は、この意味するところは、恐らく、イエスが或る期間、エッセネ派の人々の共同体に引き籠もられて過ごされ、そこでご自身の使命について、祈りと断食をなさって、よくお考えになったのだろう、と言った。

そしてその期間が過ぎると、イエスは飢えておられた。すると悪魔がイエスに言った。「あなたが神の子なら、この石にパンになれと命じなさい」。イエスは悪魔に答えられた。「人間はパンによってのみ生きているのではなく、神のすべての御言葉によっても生きている」と書かれている」。

フランススコ 悪魔はイエスが、なんの意味も持たない、誰にも良いことではない、無益な奇蹟を行ふことを望んだんですね。

オリヴィア または、イエスさまご自身だけに役立つ奇蹟をね。後々、イエスさまは大勢の群衆にパンを与えるという奇蹟やその他のことを行つてらっしゃるんだから。ここで言われていることは、利己的な奇蹟とでも言つたらいいのかしらね。

グスターヴォ 僕は、とくにこの試みは、イエスが救世主であることを、純粹に物質的な水準、いわば、経済的な発展といった次元からしか考えないメシア信仰から生じたことだと思ふんだ。もちろん、パンは大切だよ。だけど僕たちはそのことのみに止まっていられない。革命は、人々に食べ物や着る物、その他のちょっとした快適さを与えるということじゃないんだよ。革命はそれ以上のものなんだ。それはイエスが自分を救世主として世に送られたと感じ、ご自身でそれを証明されたと同じような、ひとつの試みなんだ。

トマス パンというのは食べ物のことでございましょうが。動物たちは食べ物だけで生きています。人間だって、もうひとつ他の食べ物で生きていますだよ。そのう、つまり、愛つていうパン、いまやっているこういう集会つていうパン、ご聖体というパンで……

マヌエル キリストは、食物だけでは人間には十分ではない、と言われたんだ。動物たちが食べなければ生きて行けないように、実際人間は、神の御言葉なしには生きて行けない。神の御言葉がなければ、人間は他の人間に対して人間らしくすることはできない。それはただ一匹の動物に過ぎないんだ、一匹の狼……

エルビス はっきり言ふとだな、われわれは生きるために神の御言葉を必要とするということだ。

だからイエスは荒野に行つて、断食した。

マルセリーノ 神の御言葉はわれわれにパンをも与えるんだ。或る共同体のなかには、食べる物を持っている人間も、持っていない人間も居るということが有り得る。だが、すべての人々の間に愛があれば、彼らはそのパンを分かちあつて、皆が食べることができるんだ。愛がなければ、遙かに多くの食物があつたところで、飢えがのさばつてゐるよ。ひとりの人間がすべてをひとり占めしたいと思うからね。

オスカル 人間がパンの他に、生きるために必要としているこの《神の御言葉》というのは、キリストが僕たちを地上に遣わした使命のことなんだ。

私たちは第二の試みの箇所を読んだ。悪魔はイエスを高い山に連れて行き、世界中のすべての国を示した。——これらすべてをイエスは頭のなかでごらんになられたんだろう——と私は言った。

そして悪魔はイエスに言った。「この権力とこの国々の榮華とを、みな、あなたに与えよう。なぜなら、これらは私に委ねられているのだから、私は私の与えたい人にこれらを与える。あなたが私の前にひざまずき、私を礼拝するなら、これらすべては、あなたのものだ」。

ラウレアーノ この悪魔はプロバガンダをする能力があるんだな。わが国の警察がやるプロバガンダとまったく同じだ。誰か或る男が或る村にやってくる。人々が彼を選挙するように、絵空事ばっか

り約束する。そして人々が彼を当選させれば、約束はみんなふつ張んじまうというわけさ。

他の男が言った。――悪魔はイエスに、帝国主義的メシア信仰を申し出たというわけさ。

――じゃあ、よい帝国主義になったら、それはイエスから始まったことになるのか？ とフ
リオが尋ねた。

フェリベ いや、イエスがもし、この試みに屈服していたとしたら、イエスの帝国主義も、他のすべての人々によるものと同じくらい悪いものになっていただろう。

トマス 他の帝国主義だっても、悪魔の支配によるものですだ。

トーニョ それに、僕は、この悪魔がまったく間違った前提から出発しているって言うことが、この文章から解るんだ。彼はイエスに地上のすべての権力とすべての富を与えたいと思った。イエスがこれを拒むと、悪魔は、実際の主人はこの悪魔ではなくて、イエスであること、つまり、全人類のなかのイエスであることを認めてしまっている。イエスは、どちらにしても自分のものであるものを、悪魔が彼に与えると言ったからというので、悪魔を拜む必要なんかないわけだ。それとまったく同じことが、僕たちにも言えるんだ。

私は尋ねた。――じゃあ、なぜ悪魔はイエスにすべてを与えよう、なんて言ったんだろうね。

ウィリアム 悪魔はもともと海千山千なのさ。それが独裁者というものなんだ。彼は権力を持っている。しかし正当な権力ではなく盗んだ権力だ。帝国主義、資本主義、すべての迫害、こういったものは皆、悪魔なんだ。私たちはこの悪魔から、こやつが横領したすべてのもの、世界中の富を取り上

げるといふ仕事を負っているんだ。このイエスの試みは、今日起こっていることのたとえでもあるんだよ。権力を持っているものは、民衆が彼らを礼拝するようにいろいろな約束をする……

フランシスコ この聖書の部分によれば、すべての政府は悪魔から来たものなんだ。キリストがこんな政府を組織するなんてことはあり得ないよ。なぜならイエスは、これらすべての権力に反対する革命を行うために、この世に來たんだから。いつか政府なんてもう全然、存在しない日が来るだろう。そしたら、革命が最終的な勝利を占めたことになるんだ。

フェリペ 悪魔はこの地上のすべての国々の所有者に、自ら就任したんだ。悪魔は天国から追放されたとき、地球の底知れぬ穴、深い所へ落ち込んだんだ。だから彼は、自分がこの地上の主人だと信じ込んだんだ。実際、彼が地上の主でなかつたとしたら、彼はただそう信じただけなんだけれど、それだけにすべてを自分ひとりで所有したいと思つた。独裁者や搾取者のようにね。そんなふう^{あつ}にこの地上を自分のものにしてしまう人間は皆、悪魔と同じなんだ。しかし、彼らは事実上、この地上を所有しているわけではない。なぜなら地上を所有するという唯一の方法は、ただ部分的に所有することではあり得ないんだから。何百万にも分割してね。この点ではみんな同じなんだ。

アレファンドロ 悪魔がキリストにすべての国々を頭の中に示したとき、彼はキリストにただ町々や政府を示しただけで、湖や山や火山は示さなかつた。なぜなら、それらのものは邪悪なものではないし、悪魔のものでもないからだ。

マルセリーノ 権力！ すべての権力は邪悪で、悪魔から來たものなんだ。

トマス 悪魔はイエスさまを高慢にし、利己的にするために、すべて示しただ。

私は言った。——それは当たっているね。悪魔は自負心と高慢の、人間による人間の支配の主なんだから。これらすべてのものが悪魔の特徴なんだ。そして悪魔は彼に属する人々に、この特性を与えているんだ。彼はまた、イエスにもこれを提供しようとしたが、イエスはこれを拒けられたんだね。或る男。——富、それ自体は悪魔から来たものでもなんでもない。金持たちの利己主義こそ悪魔から出たものなんだ。

その後、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の尖塔のうえに立たせてイエスに言った。「あなたが本当に神の子なら、ここから身を投げてごらんなさい。《神が天使たちに命じられて、天使たちがあなたを守るであろう》と書かれているのだから」。

トマス 悪魔がイエスに、神殿の屋根から飛び降りろと言ったのは、イエスが神の御子であることを、心の底じゃあ信じていなかったからでござえましよう。悪魔は、本当にイエスが御子かどうかを、見たいと思いましたが。だから悪魔はイエスにこんなことを言いましただな。

オスカル・マイレーナ そうだ、試みだったんだ。だって「あなたが本当に御子なら、飛び降りてみる」って言うなんて。

他の男。——疑い深いんだ。

さらに他の男。——いや、違う。悪魔はイエスが御子であることが、よく解っていた。彼はまさに神の御子を支配し、イエス以上の権力を持つことを欲していたんだ。だから悪魔はイエスに命じたんだ。まあ彼が、俺の言うことをきくかどうか見てみよう、というわけだった。それで俺たちに解るのは、悪魔がこの世でどれだけ強大な権力を持っているか、っていうことなんだ。

以前は、政府発行の機関誌で指導的な役割を果たしていたが、今は私たちとともに生活しているジャーナリストのペドロ・ラファエル・グチエレス。——私はここでもっと違った構図を考えてみたんだよ。つまり悪魔は、私たちの多くをつかまえるのとまったく同じように、イエスを賞めそやして、なんらかの高い位置にイエスを据えようとするんだ。悪魔というのは、こんなふうに少数の人間に、富や権力や人気……といったものを与えるものだからね。そして、それでその人たちが権力を持つようになると、彼らを他のより弱いものたちを傷つけ、迫害するという試みに合わせるんだ。悪魔の誘惑にあるのは、或る人間を賞めそやして持ちあげ、それから突き落とすというものなんだ。

フリオ・マイレーナ その他、ここで同じくらい大切なのは、何の役にも立たない奇蹟ということじゃないのかな。というのは、イエスが飛び降りれば、天使がイエスを救っただろうというように。こんなことが誰のためになると言うんだ？ それはただ大風呂敷の試みでしかない。

ウィリアム 私はここに救世主の試みを見る思いがするね。この神殿からの跳躍は、それやあ、大変大仕掛けな見せものであったろうからね。ちょうど、祝日で、多くの人々が神殿の前に集まっていたと考えてみよう。そこへ偉大な救世主として、イエスが現われた。救世主は、この奇蹟によって人

人にご自分を印象づけることもできたろう。しかし、イエスはそんなふうな救世主でありたいとは思わなかった。彼は後に、つまり實際或る祝日にエルサレムに上るわけなんだけれど、しかしそれはまったく異なった方法で上られたわけだ。彼はこの試みに抵抗し、悪魔を地獄に送られる。しかし聖書には、「悪魔はしばらくイエスから離れ去った」と書かれている。後にこやつはまた戻って来るんだ。私は言った。——そうだ、この三つの試みは、事実上はただひとつのものなんだ。イエスは、ユダヤ人たちが期待していた、支配的で勝利に輝く救世主として現われたんではないんだね。そしてこれはきつと、イエスにとって真正正銘の試みだったんだが、イエスは彼がもたらす解放は苦悩と死を通してやって来なければならぬということを知っていたから、これを斥けたんだ。ユダヤ人たちがイエスに、偉大で世間の耳目をそばだたせるような徴しるしを願ったときに、彼はヨナの徴（その死と復活）より他の徴はない、と彼らに言っている。イエスの苦悩と死を受け入れず、他の救世主のあり方を取るという同じような誘惑は、後にゲツセマネの園でもう一度、彼を襲って来る。

フェリペ・ペーニア 悪魔はこの誘惑のときに、「なぜならこう書かれている云々」と聖書を持ち出していることが解った。こんなふうに多くのキリスト教徒も、自分の利益を守るために聖書を利用してゐるんだ。彼らは言う。「聖書にはこう書かれている云々」。そうやって彼らは、僕たちを搾取しようとするんだ。

他の男。——「あなたたちは所有権を尊重すべきだ。なぜなら神がこれを望まれたんだから」と、彼らが貧乏人たちに言うようにね。